

グリッドデータバンク・ラボのご紹介

—スマートメーターのデータ活用とその可能性—

2019年6月26日

グリッドデータバンク・ラボ有限責任事業組合



1. グリッドデータバンク・ラボの概要
2. ラボで主に扱う電力データ
3. 電力データ活用の可能性
4. ラボのサービスメニュー
5. ルール整備に関する期待

1. グリッドデータバンク・ラボの概要

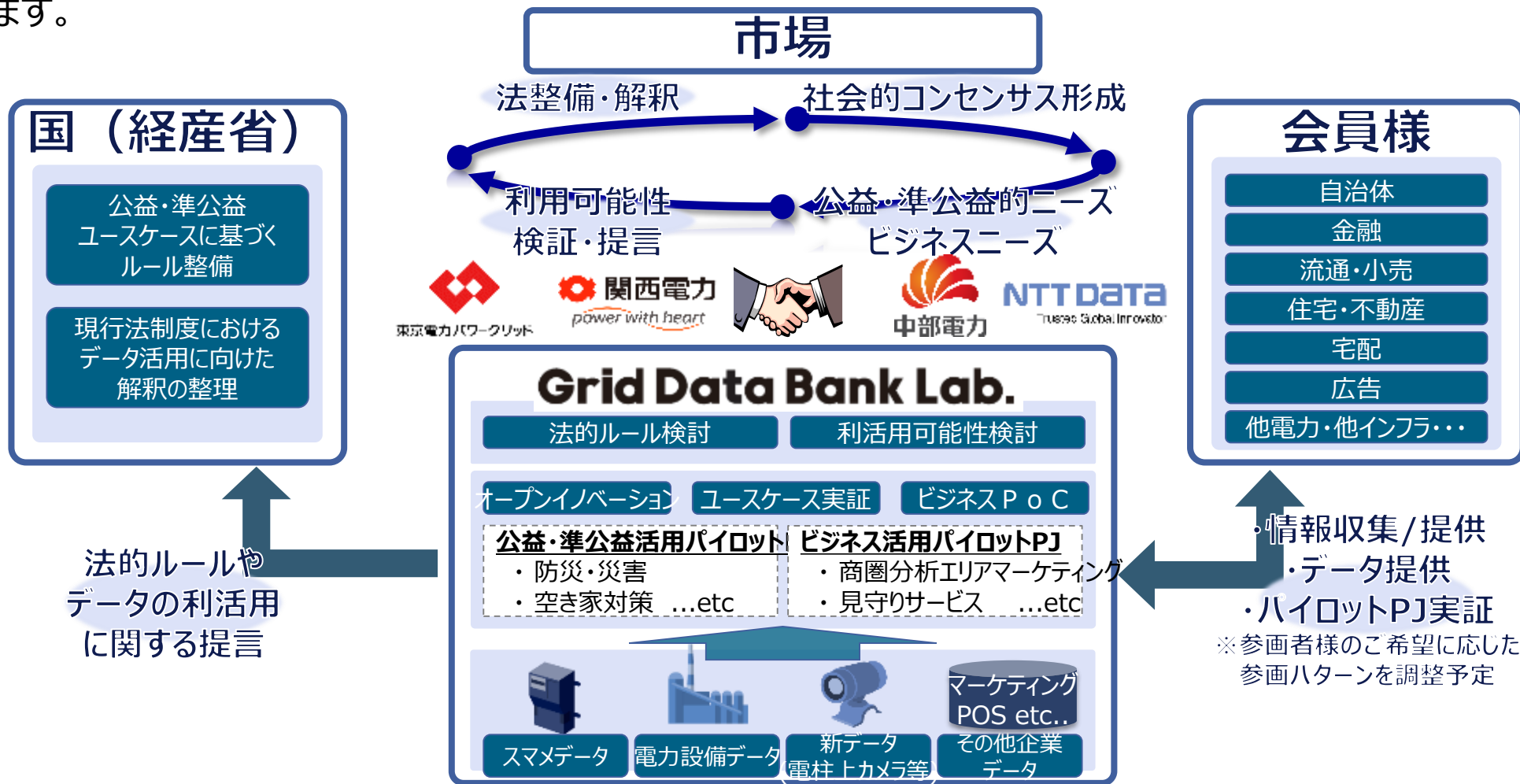


**Grid
Data
Bank
Lab.**

グリッドデータバンク・ラボの設立



社会貢献・社会問題解決・各業界の産業発展に向け、スマートメータをはじめとした全国での電力設備データ活用を推進する「グリッドデータバンク・ラボ有限責任事業組合」を、2018年11月に東京電力パワーグリッドとNTTデータにより設立、2019年3月に関西電力、中部電力の組合参画を経て現在に至っております。



2. ラボで主に扱う電力データ



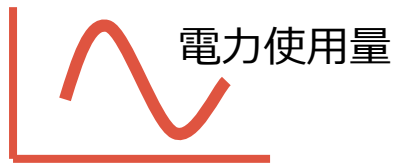
**Grid
Data
Bank
Lab.**

電力スマートメーターの電力使用量をもとにした 新たなビックデータ

個人情報



世帯単位



匿名加工処理



個人の識別不可

集計処理

統計情報

9%	10%	7%	9%
60%	20%	26%	25%
33%	40%	27%	44%
60%	22%	30%	20%

本人の同意取得に基づく
パーソナルデータ活用

個人を識別できない形で
プライバシーを保護

エリア単位の集計

① 高い鮮度

当月の世帯数を把握することが可能。

月ごとの世帯数などの遷移を把握することで“街の変化”をタイムリーに把握できる。

2015年 国勢調査 (世帯数)

駅前の再開発
マンション建設

2018年4月(現在) スマメ統計 “街の変化”を捕捉

③ 柔軟なエリア(商圈)設定が可能

スマートメーターデータは、ポイントデータで保持しているため、利用シーンに合わせた柔軟なエリア設定が可能。

円商圈 道路商圈

国勢調査 住民基本台帳

比較 スマメ統計

国勢調査や住民基本台帳は、メッシュや町丁目単位でしか保持していない

② 高い精度

エリアで生活をしている“リアル”な世帯数を把握できる。

住民基本台帳では把握できない住民票を出していない住民も世帯も把握できる。

住民基本台帳 比較 スマメ統計

2018年4月 2018年4月

“リアル”な世帯数を捕捉

単身赴任、下宿生等は、住民票を提出していないことがある

④ 30分毎の時間傾向分析が可能

昼間の在宅傾向、帰宅ピークの時間帯など、従来は定量的な把握が困難であった、時間帯別の外出や帰宅などの世帯活動を把握できる。

帰宅時間世帯数(平日)

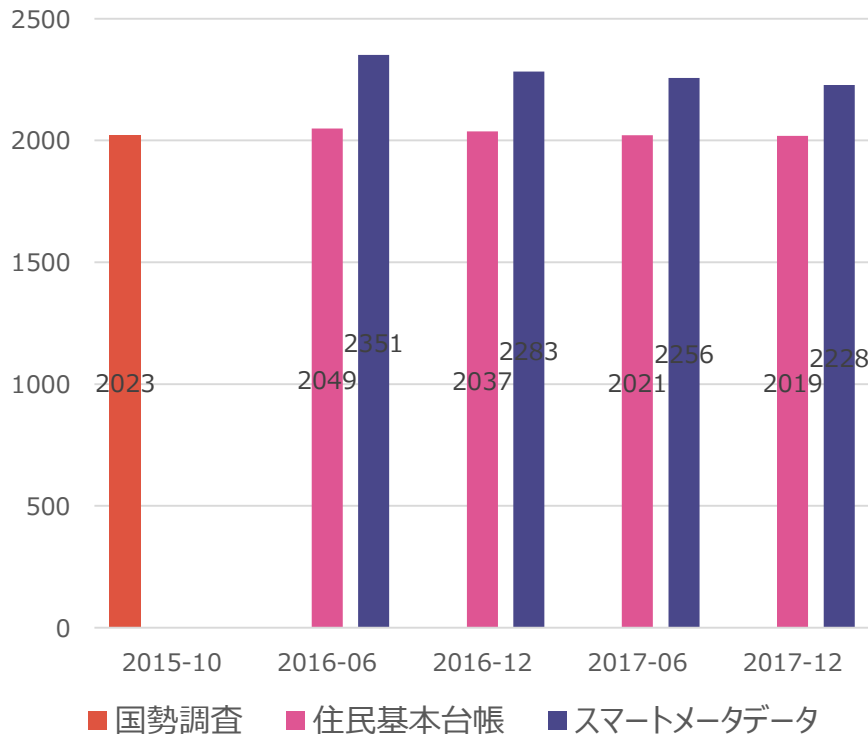
帰宅時間世帯数(休日)

(参考)国勢調査・住民基本台帳とスマートメータ統計データとの比較

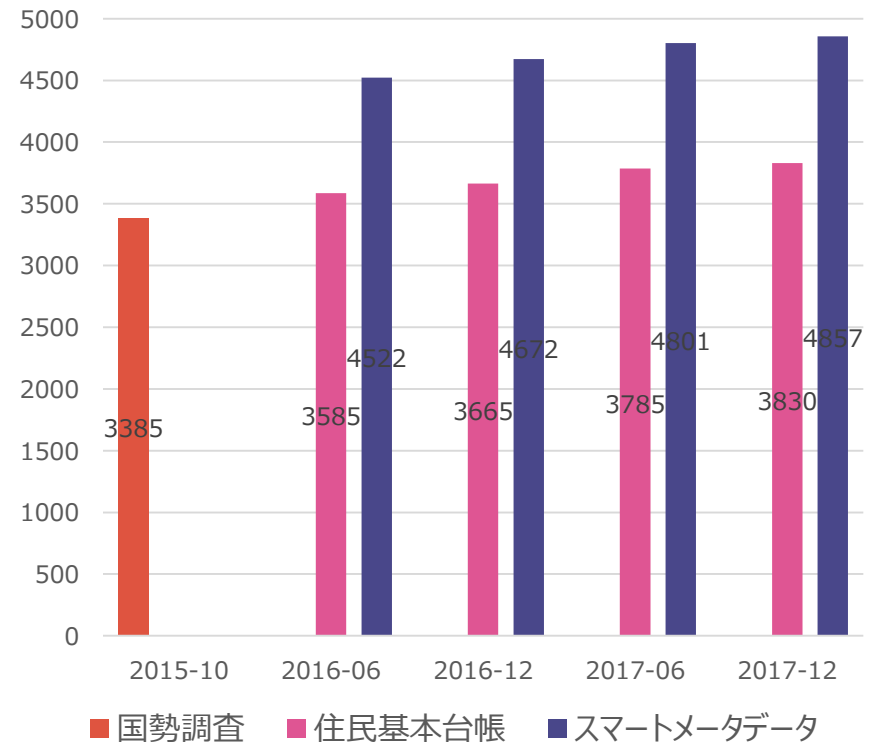


スマートメータデータは、国勢調査・住民基本台帳で把握できない世帯を把握できる。蒲田3丁目で平均13%、早稲田鶴巻町で平均21%スマートメータ統計データで把握した世帯数が多くなっている。

国勢調査・住民基本台帳との世帯数の比較 (蒲田3丁目)



国勢調査・住民基本台帳との世帯数の比較 (早稲田鶴巻町)



3. 電力データ活用の可能性

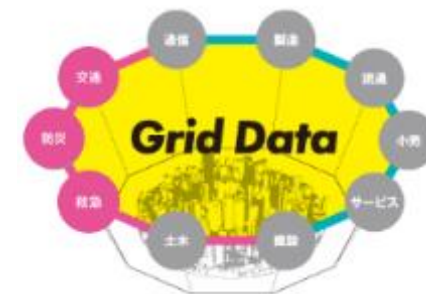


Value
Statistics
Analysis
Application
Business Activity
Public Service
Service

**Grid
Data
Bank
Lab.**

防災地域の生活実態を踏まえた最適な復旧計画

- ・災害エリア、復旧状況、避難ルート、避難所の把握
- ・物資調達など防災計画の検討



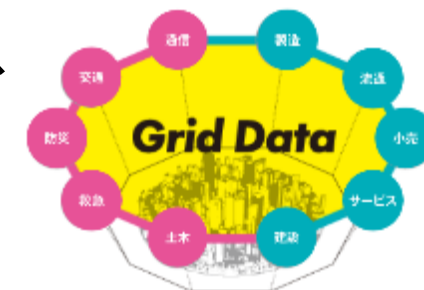
店舗周辺の生活動向を把握した売上予測の精度向上

- 出店エリアの周辺環境、ターゲットの分析
- 営業時間、店舗形態など運営計画の検討



日々の暮らしに更なる安心、豊かさをもたらす新サービス

離れて暮らす大切な人を近くに感じることのできる
誰もが使う電気を活かした新しいコミュニケーションサービスのかたち



4. ラボのサービスメニュー





Showroom 〈発見〉

各種セミナーやデモ等
電力データ活用に関わる情報提供

Market Place 〈交流〉

様々なデータと
会員どうしを繋げる場を提供

Business Design 〈実証〉

電力データを活用した
ビジネスプロセス変革や新規サービス創出

Incubation Support 〈共創〉

電力データを活用した
新しいサービスアイデアを共創

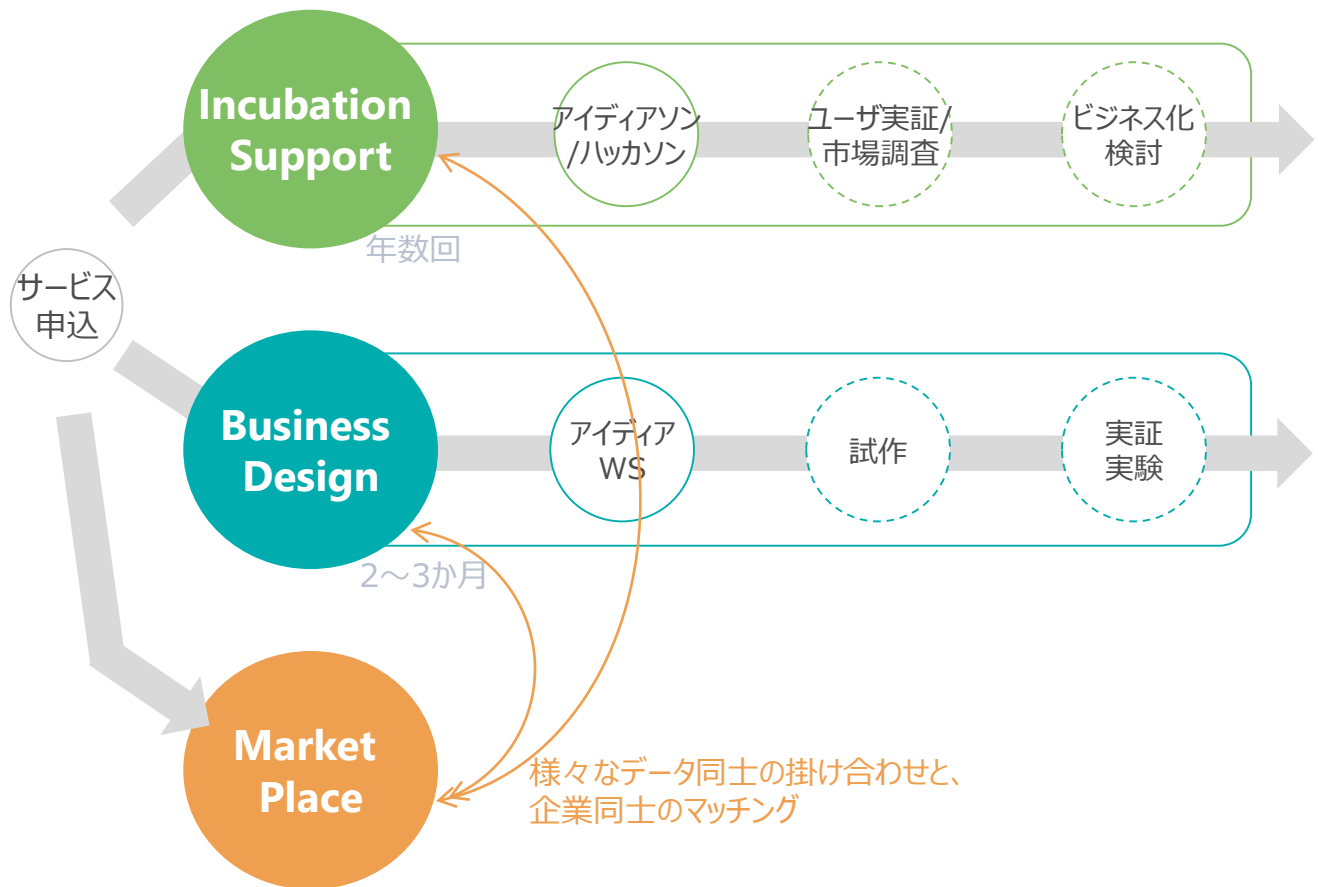
一般向けサービス

- ショールーム(オープンスペース)に来場いただき、LABのサービスをご紹介。



会員向けサービス

- 高セキュリティプロジェクトルームにおいて会員企業向けに3つのサービスを提供。
(一部、有償での提供)



5. ルール整備に関する期待





ルール整備に関する期待

①データ提供の標準化

提供されるデータの定義および考え方、データ様式、データ提供の粒度などについては、全国でのデータ活用を前提に、標準化を進めていただきたい。

また、標準化されない範囲についても、データ提供者が合意した場合は、個別のニーズに対応いただけることが望ましい。

なお、データ活用にかかるニーズは、実証の進展やノウハウの蓄積に伴い段階的に見えてくることが想定されるため、標準化は、ニーズが明確になっているものから段階的に進め、適宜見直されるような進め方が合理的ではないか。

②個人および匿名加工情報の利用

個人（需要家）情報保護・競争環境の担保を前提として、個人（需要家）に関わる情報の提供・利用を可能とすることについて、今後、ご検討いただきたい。

③個人情報利用時のパーミッションに関わるルール整備

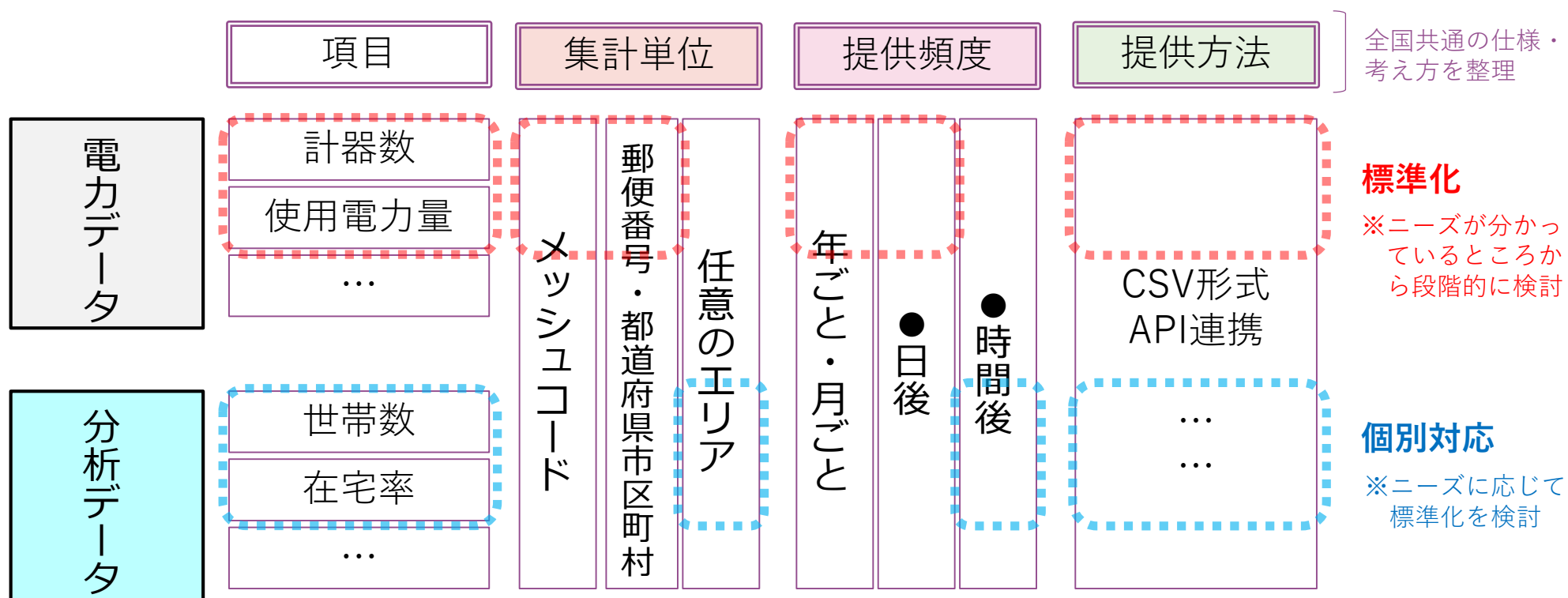
②の環境整備を前提として、個人（需要家）に関わる情報の提供に関しては、本人からの依頼に基づき、第三者提供も含め送配電事業者が情報提供を管理することを可能としていただきたい。

また、パーミッションの取得やデータ提供においては、電子的な手続きの採用により、データ提供・利用の利便性向上を図っていただきたい。

【参考】標準化のイメージ（案）

全国共通の仕様・考え方※に基づき、まずはニーズが分かっているところから段階的に標準化を進めることとする（例：赤点線枠）。

個別のニーズ（例：青点線枠）への対応もデータ提供者と利用者との個別協議により可能とし、汎化すべきものについては標準化範囲の拡大を検討していくイメージ。



※ 例えば、計器数の定義がA電力は低圧のみ・B電力は低高圧といった相違が生じることや、世帯数の定義がA電力は低圧計器数± α 、B電力は電灯口数± β といった相違が生じることとなれば、全国統計としての活用が困難となることが懸念される。

Grid Data Bank Lab.

Value

Service

Public service

